

【第8回 佐賀県災害警戒本部会議】 7月14日

危機管理防災課長／午前7時から、浜玉町平原地区の土砂災害の搜索を開始。警察、消防、自衛隊、消防団など約160名体制。防災ヘリ「かちどき」、県警ヘリ「かささぎ」、海上保安庁の固定翼機で空からの検索。また、県警、海上保安庁による海の搜索を行っているが、新たな発見等の情報はない。

海上保安室／「かちどき」で、9時20分から2時間、昨日と同じエリアを探索した。

危機管理防災課長／唐津市は、引き続き災害対策本部を立てている。避難指示は、平原地区の67世帯191名。平原地区上流部の崩壊の恐れがある部分に、県がセンサーを設置する予定。住民に説明し理解が得られると、唐津市は避難指示を解除する方向。それ以外の避難者は、5世帯9名。保健所職員6名を唐津市に派遣。

危機管理・報道局副局長／これまで4日間、約100時間にわたり安否不明者を搜索した。各消防署、地元消防団、警察、自衛隊、海上保安庁、救助犬を扱うNPO団体など、毎日100人を超える規模での搜索だった。10日、11日に各1名のご遺体を発見。残る1名は、発見できていない。

12時5分、現場2km範囲の土砂やがれきの撤去、周辺の確認がすべて終了し、現場周辺での搜索活動は終了となり、現場指揮所が撤去される。今後は、河川や海域などを地元消防、消防団、警察などが搜索を続ける。

今回の活動では、県技術職員及び民間の専門家が、現場の安全管理に重要な役割を果たした。土砂崩れの再発予知や土砂撤去の技術、家屋倒壊の危険性など二次的被害へのアドバイスを、活動を計画する指揮本部が、頼りにしていたのが印象的だった。

佐賀広域消防局／自衛隊にご協力いただいた土砂災害現場の搜索は終了した。現在、消防は撤収作業を進めている。

今後は、唐津消防、消防団とともに河川を中心に搜索を続ける。

自衛隊／消防、警察、救助犬チームと連携、協力し、行方不明者の人命救助を実施した区域の搜索を自衛隊としては終了した。

警察本部／午前中は、土砂災害現場と河川を搜索。9時から県警の警備艇を出動し搜索した。午後は、河川の搜索、県警ヘリによる上空からの検索、引き続き警備艇で海の搜索を行う予定。

今後、警察本部、唐津警察署で船による海の搜索、徒歩による海岸線の搜索、ヘリ

による上空からの搜索を継続する。

防災監／現場の皆さん、本当にありがとうございます。

土砂崩れで被害に遭われた家屋及びその周辺の搜索は終了と報告を受けた。今後は、地元消防、警察等が中心に河川や海岸の搜索を継続すること。これまでの皆様の活動に、改めて心から感謝を申し上げます。

残念ながら、まだお一人が見つかりません。関係機関の皆様のご協力をいただき、引き続き搜索活動を継続したい。

警戒本部は、本日 17 時をもって情報連絡室の体制に移行する。関係機関と連携し、搜索は続ける。引き続きよろしく申し上げます。